



漢字

この辞典は、漢字の特徴をこうとらえて、編集しました。

中国で生まれた文字ですから、 中国の知恵を秘めています。



- 文字の生み出し方
象形文字 指事文字 会意文字 形声文字
- 字形の作り方
「構成」へん(偏) つくり(旁) かんむり(冠) あし(脚) たれ によろ かまえ
「書体」楷書体 行書体 草書体
- 字ごごとばと意味
一字一字がことばだから、意味をもっている。(表語文字)
意味がいくつかに分かれたものもある。(多義文字)
↓服(着るもの)：服を着る 服(心からしたがう)：服従・心服 服(口に入れる)：服用・一服
- 故事成語
中国の古典にあるおもしろい話から、そういう言い方が生まれ、今もさかんに使われる。
↓呉越同舟 四面楚歌 温故知新 月下米人

日本で育った文字ですから、 日本の文化を背負っています。

- 音読みと訓読み
「音」日本人の発音になった日本漢字音 海㊦カイ
「訓」おかしからの日本語、やまとことは 海㊦うみ
- 一字の使い方と、二字熟語、三字熟語、四字熟語
かな文字との協力
- 「流れる」「速い」「仲良く」など、かなといっしょでなければ表せない。
● 「日本語らしい漢字の使い方」
「いろいろな書き方」あすか：飛鳥・明日香 なら：奈良・寧楽・楡
「おもしろいことば」切手(切符・手形)・重箱・型録・時計
- 日本語としての造語力
家：公家・武家・将軍家・御三家・御家人・家来
家：大家・大家・大家・大家
地域名：房総半島・信越本線・甲武信岳



日本の現代の文字ですから、 日本人の現代生活を支えています。

- 常用漢字・学習漢字(教育漢字)・漢字の学年配当・人名用漢字・JIS漢字・ユニコード
- 字体の簡略化・旧字体から新字体へ
圓↓円 舊↓旧 辨↓瓣・辯↓弁
- パソコンでの生活
かな入力・ローマ字入力と漢字変換
- 現代的造語力
的…積極的 平和的解決・地すべりの大勝利
化…少子高齢化社会 地球の温暖化現象・情報に見える化
型…血液型・梅雨型の気圧配置・薄型テレビ・循環型社会
系…理科系・外資系企業・塩素系漂白剤・いやし系音楽 新幹線N700系
超…超スピード・超満員・超高層ビル・超目玉商品
激…激増・激減・激白・激辛・激安・激うま
絶…絶好調・絶不調





この辞典の使い方 〈見出し編〉

1 **部首の見出しをしめています。**
ここでは、部首の画数、部首の形、代表的な読み方がしめしてあります。

2 **部首の意味や役割が書いてあります。**
部首の見出しのすぐあとには、その部首の意味や役割が書いてあります。

3 **その部首に所属する字がどのページにあるかがわかります。**
同じ部首のなかでは、画数順にならんでいます。漢字の上に小さくついている数字は、部首をのぞいた部分の画数です。同じ画数のものは、代表的な読み方の順にならんでいます。

4 **見出しの漢字です。**
漢字辞典では「親字」といいます。

5 **どの部首で何画の字かをしめています。**

12 **その字の読み方です。**
音はかたかな、訓はひらがなでしめしてあります。ーのあとの細い字は送りがないです。

13 **筆順です。**
すべての常用漢字についています。

14 **その字のなりたちの解説です。**
「はねる」など、きれいな字を書くためにだいたいなことも書いてあります。

15 **篆書とていつて、その字のむかしの形です。**
篆書について、くわしくは「ものしり巻物5」(163ページ)

16 「」の中は、漢字のでき方の種類をあらわしています。

漢字のなりたちで、いっばん的に用いられる四種類(象形・指事・会意・形声)をしめました。

4画
木「きへん」
の部

1 木「まもとにして作られ 樹木の種類や木材から作られたものにかかわる字を集めています。」

- 1画部9年 0 木……615 1 札……616 本……617
- | | |
|---|---------------|
| 椎 | ……644 |
| 椀 | 647 645 644 |
| 棟 | ……645 |
| 楮 | ……647 645 645 |
| 榘 | ……647 646 645 |
| 樺 | ……647 646 645 |
| 榎 | ……647 646 645 |
| 樺 | ……647 646 645 |



「楽」は、「下」の「木」が部首なんだね。

楽
木-9
総画13
2年
朝朝
楽 697D
旧字
楽 6A0Z

4 旧字体は、その字のなりたちを知るのに役立つよ。



辞典を見ながら、ていねいに書こう!

12 画ガク・ラク 画たのしい・たのしむ

14 **「楽」**「楽」の部首は「木」。木に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。

15 **「楽」**「楽」の部首は「木」。木に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。

16 **「楽」**「楽」の部首は「木」。木に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。

17 **「楽」**「楽」の部首は「木」。木に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。

18 **「楽」**「楽」の部首は「木」。木に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。

19 **「楽」**「楽」の部首は「木」。木に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。楽(木)に「楽」を合わせた楽器のこと。

6 **部首がどこにあるかわかります。**
部首は青くぬりつぶされているところにあることをしめします。くわしくは「はねる」漢字の組み立て」(16ページ)

7 **その字が全部で何画の字かという総画数です。**
画数の数え方についてくわしくは「ものしり巻物16」(539ページ)

8 **その字をいつ学ぶかがわかります。**
見出しの字の明朝体の形をしめしてあります。

9 **見出しの字の明朝体の形をしめしてあります。**
明朝体についてくわしくは「ものしり巻物13」(437ページ)

10 **パソコンなどで使われているユニコードのコード番号です。**

11 **見出しの字の形がむかしどちがっているときは、むかしの形(旧字体)をしめています。**
旧字体についてくわしくは「ものしり巻物14」(471ページ)

12 **その字のおもな意味です。**
意味が大きく分けられるときには、①②の数字の下に、一つの大きな意味から小さな意味に分かれるときは、⑦⑧⑨に分けて書いてあります。

13 **その字のおもな使われ方です。**
一字で使われるものや、熟語として使われるものがあります。

14 **その字とかわりのある字です。**
対 反対の意味の字、対になる字
類 意味がにている字
関連 セットで覚えておくことよい字

15 **その字について、参考になることが書いてあります。**
ここでは、読み方によってまったく違った意味を表すことについて書いてあります。そのほかにも、参考になるコラムへの案内や、その字のむかしの使われ方の紹介などもあります。

16 **その字のさらにくわしい情報です。**
読み方の注意や、関連するコラムのページなどが書いてあります。

17 **その字の記号については(20)ページ**



この辞典の使い方

熟語ほか編

1 熟語の分類です。

親字の意味に①②があるとき、どの意味に分類されるかをしめています。

2 熟語の見出しです。

五十音順にならんでいます。熟語の漢字についている記号は次のようなことをあらわします。

- 小学校で習わない常用漢字
- △ 常用漢字表にない常用漢字
- 常用漢字表にない読み方
- ◆ 常用漢字表にない漢字
- ✦ 印がないものは学習漢字（小学校で習う漢字）

その字が学習漢字でも、その読み方が常用漢字表にないときは▲がつきます。その字が学習漢字以外の常用漢字で、常用漢字表にない読み方のときは、▲、がつけます。

3 その語の読み方です。

語の組み立てがわかるように二行に分けて書いてあります。読み方が二字だけのときは、二字をたて書きにしています。

8 その語のあとに、どんなことがつかかをしめています。

↑(さる) ↑(む) ↑(じ) などがあります。

9 その語についての、さらにくわしい情報をしめました。

その語をより深く理解するのに参考になることが書いてあります。

その語に「**知識**」の語に「**知**」がついておいたほうがよいことが書いてあります。

表現に役立つ情報について書いてあります。

その語のべつの書き方があるときにしめします。

それぞれの記号については⑩⑪ページ

10 その字が下につく熟語です。

その漢字が下につくときに、上の字がどのようななはたらきをするかをしめています。くわしくは⑭⑮ページ「その字が下につく熟語」⑫⑬ページ

11 おんがくの意味

【楽章】しやう ①交響曲など長い曲、大きなひんぎり。②第一楽章。

【楽聖】がく ①にすぐれた大音楽家。②楽聖ペー④へ。

【楽隊】たい ①隊を組んで楽器を演奏する人たちの集まり。②交響楽隊。

【楽団】だん ①いるるな楽器で音楽を演奏する人たちの集まり。②交響楽団。

【楽譜】ふく ①記号を使って、音楽の曲を書き表したものの。②音譜。③五線譜。④譜面。

【楽屋】がく ①舞台のうらがわにあって、出演者が準備をしたり休んだりするためのへや。

【楽屋裏】がく ①外からはわからない、内部の事情。②内情。③舞台裏。④実裏面。

【楽器】がく ①音楽を演奏するための音を出す器具。②弦楽器。③管楽器。④打楽器。

【楽曲】がく ①音楽で、声楽、器楽、管弦楽などの曲。

【楽隠居】がく ①つめなどをやめたあと、気楽に老後の生活をする。

【楽園】がく ①なんの心配もなく楽しく幸せにくらせるところ。②パラダイス。③極楽。④天国。

【楽勝】がく ①→する。苦勞分ないで勝つこと。

【楽勝・圧勝】がく ①楽勝。

【楽天】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽観】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽天家】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽日】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【千秋楽】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

【楽】がく ①→する。ものごとくまげくよく明るく考えて、楽な気分であること。②病状は楽観をもちろな。

4 熟語の組み立てです。

二字でできている熟語について、上の字と下の字の関係を八種類に分けて記号でしめています。くわしくは⑭⑮ページ「熟語の組み立て」⑧⑨ページ

5 熟語の意味です。

読み方によって意味がちがうときは⑩⑪で分けてあります。意味がいくつかに分かれるときは、①②で分けてしめています。

6 その語の使われ方の例です。

ふつう漢字よりもひらがなで書かれることが多いものは、太字のひらがなでしめています。

7 その語と意味がにている語や対になる語です。

意味がにている語、反対の意味の語、対になる語、深いつながりのある語

11 下につく熟語の分類です。

親字の意味に①②があるとき、そのの意味に分類される熟語かをしめています。

下の字と上の字の関係がたものなまに、その関係をしめします。

下につく熟語のうち、同じようなかまのないものは、⑬の記号の下にまとめてあります。

【辞書のミカタ】です。右ページの下のにあります。この辞書で使っている記号について説明しています。

【部首ミカケル】です。左ページの下のにあります。調べたい漢字の部首を探すときに使います。部首が、部首さくいの順で右から左にならんでいます。開いているページの部首を大きくしめし、その右がわにはそれより前の部首、その左がわには後ろの部首があります。探している部首がしめされている方にページをめくってください。

【部首ミカケル】です。左ページの下のにあります。調べたい漢字の部首を探すときに使います。部首が、部首さくいの順で右から左にならんでいます。開いているページの部首を大きくしめし、その右がわにはそれより前の部首、その左がわには後ろの部首があります。探している部首がしめされている方にページをめくってください。

【部首ミカケル】です。左ページの下のにあります。調べたい漢字の部首を探すときに使います。部首が、部首さくいの順で右から左にならんでいます。開いているページの部首を大きくしめし、その右がわにはそれより前の部首、その左がわには後ろの部首があります。探している部首がしめされている方にページをめくってください。



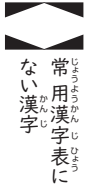
この辞典の使い方〈記号一覧〉



常用漢字表にある漢字



許容の字



常用漢字表にない漢字

1年
小学校で習う字とその学年

常用
常用漢字のうち、小学校で習わない字

人名
人名用漢字

表外
常用漢字でも人名用漢字でもない字



その字の組み立て。くわしくは④「ふろく」漢字の組み立て」(6ページ)

音読み 音読み。かたかなでしめしています。

訓読み 訓読み。ひらがなでしめています。一あとの細い字は送りがなです。

⑨ 中学校で習う読み
⑧ 高等学校で習う読み
⑦ 小・中・高等学校で習わない読み
印がないものは小学校で習う読み

【字体のほなび】

手で書くときと、本などで見かけるときの字の形が違うものなどについての説明。常用漢字表で*がついている項目についてとりあげています。くわしくは④「ふろく」字体についての解説」(30ページ)

【例解使分け】

「リム」使分け「への案内」

「リム」文字物語「への案内」

【故事のほなび】

「リム」故事のほなび「への案内」

- 小学校で習わない常用漢字
- ▲ 常用漢字表にない読み方
- ◆ 常用漢字表にはない漢字
- 印がないものは学習漢字(小学校で習う漢字)

④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

その熟語の組み立て。くわしくは④「ふろく」熟語の組み立て」(8ページ)

【注意するよみ】

その読み方をするこぼが、かぎられているもの。常用漢字表の音訓欄で一字下げになっているものをとりあげました。

【兄】キョウ…**例**兄弟

【特別なよみ】

ほかの字と組み合わせるときに特別な読み方をするもの。常用漢字表の「付表」にある語をとりあげました。

神楽(かぐら) セタ(たなばた)

【県名】

都道府県名に使われるときに特別な読み方をするものなど、二〇一〇年の常用漢字表改定で入った、都道府県の読み方をとりあげました。

大分(おおいた)

※それ以外の県名に使われる漢字は、とくに何もしめていません。

【名前のみ】

名前としてつかわれる読み方

【参考】

その語のもともとの意味や、どうしてその字を使うか、どういう読み方をするかなど、その語をより深く理解するのに参考になることが書いてあります。

【知識】

その語に関係することで、知っておいたほうがよいことが書いてあります。国語以外の教科の内容などでもここでふれてあります。

【表現】

その語がどんな使われ方をしているか、意味の広がりやほかの語とのちがいなど、表現に役立つ情報について書いてあります。

【表記】

その語のべつの書き方があるときにしめます。

この項目やページを見てくださいという記号





この辞典の使い方

コラムを楽しもう！

ここでしめしたコラム以外にも「漢字のなりたち」や「熟語の組み立て」「漢字をめぐる歴史や中国の代表的な人物をとりあげた「中国書名物語」など、ふろくにもたくさんのコラムがあります。

ものしり巻物

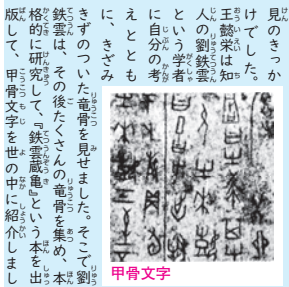
漢字について知っておきたいこと、知っていると役に立つことがらをとりあげて、ひとつひとつまとめて書いてあります。左がわのページのところどころにあります。☞「ものしり巻物」のもくじは(78)ページ

ものしり巻物

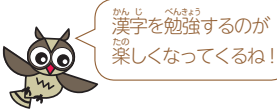
第4巻

甲骨文字と金文

【甲骨文字】甲骨文字というのは、亀の甲羅や動物のほねにきざみこまれた最古の漢字を指します。
この甲骨文字は、わずかに百年ほど前にぐうぜんのことから発見されました。しかしそれはただ甲骨文字が発見されたとい



甲骨文字



漢字を勉強するのが楽しくなってくるね！

文字物語

漢字のことを勉強するのにとくになりたいせつだと思われる字について、その字のもつ意味や、日本語の中ではたす役割という面から物語風に書いたものです。その字の出ている本文とあわせて読みましょう。右がわのページのところどころにあります。☞「文字物語」のもくじは(75)ページ

☞「文字物語」のもくじは(75)ページ

文字物語

器

「器」は、「うつわ」「うつわ」がもつ、それぞれの形とはたらくことが中心になって、意味がひろがっていく。
①うつわは、中に物を入れるのに使う道具。つまり、入れ物としてはたらく「容器」器物だ。「食器」「洗面器」など、いろいろある。
②は、何かをするときに使う道具という。はたらかなければ道具ではない。目的に

よって、「計器」「計算器」「炊飯器」「湯わかし器」などいくらでも；器がつくられる。
③は、生き物のからだの中でたたく「うつわ」、つまり「器官」だ。呼吸器、消化器、「循環器」、どれも生きていくのに欠かせない。
④は、人間ひとりひとりがつまっている、はたらく、能力を表すもの。大きな「器量」をもった人が「大器」で、「大器晩成の言い方」でよく使われる。

故事のはなし

むかしのできごとや、古い本に書いてあることがもとになって、とくべつの意味で使われるようになったことばについて、その由来を説明してあります。左がわのページの上のほうにあります。☞「故事のはなし」のもくじは(74)ページ

出藍の誉れ

青い色の染料はあいくさから作ることができた青色はものあいくさよりも青い。
（荀子「勸学篇」）
植物であるからそのものはさほど青くはない。あいくさが先生でできた青色が生徒

使い分け

おなじ読みをする漢字（同訓異字）や熟語（同音異義語）の意味のちがいや使い方のちがいが書いてあります。

おなじ読みをする漢字の使い分けは、左がわのページにあります。おなじ読みをする熟語の使い分けは、その熟語のページにあります。

☞「使い分け」のもくじは(76)ページ

例解

さげる
（下げる・提げる）
下げる⇨低くする。下にたらす。かたづける。
①頭を下げる。値段を下げる。室温を下げる。軒に風鈴を下げる。おぜんを下げる。提げる。手にきざりたり、肩にかかけたりしてたらすように持つ。
②買った物ぶくろを提げる。手提げかばん。



頭を下げる

かばんを提げる

故事のはなし

青い色の染料はあいくさから作ることができた青色はものあいくさよりも青い。
（荀子「勸学篇」）
植物であるからそのものはさほど青くはない。あいくさが先生でできた青色が生徒

出藍の誉れ

にあたり、恩師よりもりっぱになることを表している。学問の大切さをいうたえてて、青は藍より出て、藍より青しともいって、原文は「氷は水之を為りて水よりも寒し」とつづ



中国の古い本のことばが、今の日本でも使われているんだね。

漢字パズル

漢字についてのパズルです。右がわのページのところどころにあります。

☞「漢字パズル」のもくじは(78)ページ

☞「漢字パズル」の答えは1130ページ

漢字パズル

4 ぐみあわせ

風が吹いて、ぼうしが飛んでしましました。どのぼうしが、どの人のぼうしでしょうか。



答えは1130ページ

ぜんもんせいがい 全問正解だったら、かんじはかせ 漢字博士だね！



7 画 見 「みる」

「見」をもとに作られ、目で見ることにかわる字を集めてあります。

この部首(画数)	0 見 …… 962	4 規 …… 963
5 党 …… 964	9 親 …… 965	10 覧 …… 966
		11 観 …… 966

見

見-0
総画7
1年 [見] 8988

見 見-0

「云意 大きな「目」と人体「目」を合わせて、人が大きな目でみることを表している字。」

- ① みる、目で見る。見える。例 までの外を見る。山々が見える。すがたを見せる。見物・露見。
 - ② 人と会う。顔を合わせる。例 会見。
 - ③ かんがえ、まともた考え。例 見解。意見。
- 【例】 使い分け みる [見 診] のひだりのページ
- 【名前】 のみ あり：あきら、ちか

- ① みる (この部首) のとき
 - ② 見 (人と会う) のとき
 - ③ 見 (かんがえ) のとき
- 【見識】 見識 (い) ものこゝろについてのこと
- 【見地】 見地 (けん) ものを見ること、考へること
- 【見境】 見境 (けん) もののちがいが見分けられること
- ① 見 (みる) のとき
 - ② 見 (人と会う) のとき
 - ③ 見 (かんがえ) のとき
- 【意見】 意見 (い) 近い意味。
- 【意見】 意見 (い) 近い意味。
- 【意見】 意見 (い) 近い意味。
- 【意見】 意見 (い) 近い意味。
- 【意見】 意見 (い) 近い意味。
- 【意見】 意見 (い) 近い意味。
- 【意見】 意見 (い) 近い意味。

規

見-4
総画11
5年 [規] 898F

規

「規矩準繩」ということばがある。「人が守るべき目安とするきまり」という意味で使われるが、もともと、「規はコンパス、「矩」はかねじやくというL字形の定規、「準」は水準器、「繩」は墨糸として直線をかく道具、墨繩をいって、この四つは昔から建築になくてはならない基本の道具であった。コンパスで円を、かねじやくて

のではなく、見るだけで勉強すること。例 かげで、体育の時間を見学する。

【見当】 見当 (けん) ① ものこゝろや先のことに対する見こみ。例 およその見当がつく。見当ちがい

② だいたいの方向。例 バス停はこっちだろうと見当をつける。③ だいたいそれくらい。例 千円見当の品。表現 ③ は、数を表すことばにつけて使う。

【見物】 見物 (けん) ① みる。おもしろいものやめずらしいものを見て楽しむこと。例 高みの見物 (自分は安全な場所について、人のこまっただきことなどをおもしろ半分に見ること)。見物客。名所見物。② 見る。例 見るねうちのあるもの。例 ゆうべの花火は見物だった。

【見聞】 見聞 (けん) ① みる。じっさいに見たり聞いたりすること。また、それによって得た知識。例 見聞を広める。

規 規 (ぎ) 夫 (ふ) 矩 (こ) 規 (ぎ) 規 (ぎ)

「形声「夫」が、道具ものさしを、見が「キ」とかわって読み方をしめしている。「ケン」は「まるい」の意味をもち、円をかくコンパスを表す字。

- ① コンパス。例 定規
- ② きまり。てほん。例 規則 法規

【文字物語】 ただ、ただし、ちか、り、もと

- 【規格】 規格 (き) ① 製品の形や大きさ、品質についてのみ。規格に合っている。
- ② 規矩準繩。例 規格に合っている。
- 【規制】 規制 (き) ① する。きまりをつくって、それからはずれないようにすること。例 車の乗り入れを規制する。類 統制
- 【見学】 見学 (けん) みる。例 見学。例 見学。例 見学。
- 【見学】 見学 (けん) みる。例 見学。例 見学。例 見学。

四角形をえがいて、水準器で水平かどうかをはかり、墨繩で直線をひくのだ。「規」はまた、コンパスでえがかれる円形をいう。わたしたちの耳の中に「半規管」というものがある。からだのバランスをたもつにはたらいっている器官だ。「半規管」は「半円」の意味。リンパ液のはいった半円形の管が三本、たがいに向角にまじわっているところから、これを「三半規管」ともいう。

【見事】 見事 (けん) ① みる。じつはえや結果がすぐれているようす。例 見事なできだ。表現 ほめる意味のことばだが、よくないにもて、「見事」に負けたなどと、文句のつけようがないという意味で使うことがある。

【見世物】 見世物 (けん) ① 入場料を取つてみせしものやわざを見せるもよおしもの。例 見世物小屋。② まわりの人からおもしろがって見られること。例 いい見世物にされてしまった。


【見所】 見所 (けん) ① 見る。ねうちのあるところ。例 この映画の見所は主人公のアクションだ。② これから先に役に立ちそうな長所。例 見どころのある青年。

【見本】 見本 (けん) ① どの品物かがわかるように見せるための実物。サンプル。例 見本市、商品見本。② それを見ればどんなことかわかる代表的な例。よい手本。例 見本をしめす。

【見目】 見目 (けん) ① 見たときに受ける感じ。例 見目

- 【規則】 規則 (ぎ) ① 世の中のことや自分の生活などをきちんと進めていくために、まもらなければならない。ルール。例 規則正しい生活。交通規則。類 規約 規程 規定 規程 法則 約束
- 【規定】 規定 (ぎ) ① する。きちんとしたきまりをつくること。そのきまり。例 規定の書式にしたがう。類 規則 規程
- 【規程】 規程 (ぎ) ① きまり。とくに、役所や会社内の仕事のやり方について決めたもの。例 服務規程。類 規定 規則
- 【規範】 規範 (はん) ① 考え方や行動のしかたについて、人びとよりのこと。例 規範をせしめる。
- 【規模】 規模 (ぎ) ① 物事のしくみや、わく組みなどの大きさ。スケール。例 規模を広げる。大規模
- 【規約】 規約 (ぎ) ① 関係する人びとが話し合つて決めたきまり。例 会場の規約にしたがって活動する。類 規則
- 【規矩】 規矩 (ぎ) ① 人のおこないのよりどころになるきまり。例 規矩を重んじる。類 規則 ②

新聞を見る
患者を診る



①規が下づく(熟語上の字の働き) 例 規正(せいじょう)

②規(「きまり」)のとき
【新規(しんせい)規内規(き)】下ノヨナキまりか。

視 見-4 総画11 6年 明【視】8996 旧【視】FA61

視 「形声」「示」が「示」という読み方をしめしている。「示」は「とめる」と意味を持ち、目をとめて「見」ることを表す字。

①目を向ける。じっと見る。ものを見るはたしき。例 視察(しつさ) 監視(かんし) 近視(きんせい)

②...だと思つて見る。例 重視(じゅうじ)

【眼界(がい)】 ①自分の目で見るのできるひろさ。例 視野(しよび)に入る。類 視野

【視角(かく)】 ①自分が見ているものの両はしと目をむすんだ二つの直線がつくる角度 ②同じ大きさのものでも、遠いと視角は小さくなり、近いと大きくなる。③ものごとを見るときや考えるときの立場。例 へつの視角から見。類 観点(くわんてん) 見地(けんぢ) 角度(かくど) 視点(してん)

【視覚(しきやく)】 ①ものの色や形(かたち)の違い(ちがひ)に近い(よひ)などを見分ける(みわける)目的(めく)のため。例 視覚(しきやく)にうつつたる。関連(かんれん)視覚(しきやく)【目(め)・聴覚(ちやうかく)【耳(みみ)・嗅覚(きゅうかく)【鼻(び)・味覚(みかく)【舌(した)・触覚(さふかく)【皮膚(ひふ)】

【視察(しつさ)】 ①実際にその場所(ばしょ)に行き、事情(じきやう)を見たり調べたりすること。例 海外視察(がいがいしつさ)

【表現(ひょうげん)】 おおやけの立場(たてばた)でおこなう場合(ばあひ)に使う。

【視診(ししん)】 ①みる。医者が顔(かほ)の色(いろ)やからだのようす(ようす)を目(め)で見て診察(しんさ)すること。関連(かんれん)問診(もんしん)・打診(うちしん)・触診(さふしん)・聴診(ちやうしん)・視診(ししん)

【視線(しせん)】 ①目の向(む)いてる向き。例 視線(しせん)をそらす。人の視線(しせん)が気(き)になる。類 視線(しせん)

【視聴覚(しちやうかく)】 ①目(め)で見たり、耳(みみ)で聴(き)いたりするはたらき。視覚(しきやく)と聴覚(ちやうかく)。例 視聴覚(しちやうかく)教室(きやうしつ)

【視聴率(しちやうりつ)】 テレビ放送(はうそう)で、その番組(ばんぐみ)がじつさいにどのくらい人びとに見られていたかをしめす割合(ばいご)。例 視聴率(しちやうりつ)が上がる。

【視点(してん)】 ①ものごとを見たり考えたりするときの立場(たてばた)。例 視点(してん)を変(か)えて考える。類 観点(くわんてん) 見地(けんぢ) 角度(かくど) 視点(してん) 目線(めくせん)

【視野(しよび)】 ①目(め)に見えるだけ(だけ)の広さ(ひろさ)。例 視野(しよび)がひろがる。類 視界(しがい) ②ものごとをとらえたり、それについて考えたりできる範囲(はんい)。例 視野(しよび)がせまい。

【視力(しりよく)】 ①目(め)の、ものを見る力(ちから)。例 視力(しりよく)がおちる。視力検査(しりよくけんさ)

①規(「きまり」)のとき
【新規(しんせい)規内規(き)】下ノヨナキまりか。

②規(「きまり」)のとき
【新規(しんせい)規内規(き)】下ノヨナキまりか。

覚 見-5 総画12 4年 明【覚】899A 旧【覚】898A

覚 「形声」もとの字は「覺」。カク」とかわれて読み方をしめしている。「カク」とかわれて読み方をしめしている。「カク」とかわれて読み方をしめしている。「カク」とかわれて読み方をしめしている。「カク」とかわれて読み方をしめしている。

①感じる。感じ取る。例 感覚(かんかく)

②さぐる。心を決(き)める。例 覚悟(かくご)・覚悟(かくご)

③おぼえる。きおくする。例 こつを覚(おぼ)える。見覚え(けんおぼえ)

④めざめる。ねむりからさめる。例 目を覚(おぼ)ます。目が覚(おぼ)める。覚醒(かくせい)

⑤あらわれる。ばれる。例 発覚(はつかく)

【解(かい)使(もち)分け(わけ)】 さます【覚(かく)冷(ひや)ます】(あ)きのあきらさ・さ・さと・さと・さと

とる。ただ、ただし

②さぐる(の)意味

【覚悟(かくご)】 ①...する。そうなる(な)ってもしかたがないこと。心の準備(じゆんび)をすること。例 覚悟(かくご)はよいか。【覚悟(かくご)】もとは、生きる(きる)とはどういうことかをさぐる(さぐる)意味(いみ)の、仏教(ぶつぎやう)のことば。

④めざめる(の)意味

【覚醒(かくせい)】 ①...する。①目を覚(おぼ)ますこと。目が覚(おぼ)めること。例 麻酔(まい)酔(よ)からの覚醒(かくせい)を早(はや)める。②心のまよいがなくな(な)って、自(みづか)分のまがいに気がつくこと。例 悪(あく)の道(みち)から覚醒(かくせい)する。

①覚(「感じる」)のとき

①覚(「感じる」)のとき
【幻覚(げんかく)錯覚(さくかく)】下ノヨウニ感じ取る(かんじてとる)か。
【視覚(しきやく)聴覚(ちやうかく)嗅覚(きゅうかく)味覚(みかく)触覚(さふかく)知覚(ちかく)】ドウヤツテ感じ取る(かんじてとる)か。
◇感覚(かんかく)才覚(さいかく)自覚(じかく)発覚(はつかく)不覚(ふかく)

親 見-9 総画16 2年 明【親】89AA

親 馴(な)おや・したしい・したしい・したしい

なり 親(おや) 「形声」「業(わざ)」が「シ」という読み方をしめしている。「シ」は「とめる」と意味を持ち、近く(ちかく)によつて「見(み)る」ことを表(あらわ)す字。「したしい」として使(もち)われてい

親方(おやうち) ①いばん上(じやう)に立(た)つて仕(し)事を教(おし)えたり生活(せいかう)のせわをし(し)たりする人(ひと)。おもに、職(しやく)人(じん)やすもうの社会(しやかい)で使(もち)う。対(たい)徒弟(ていだい)

【親孝行(おやこうぎやう)】 ①「(い)する。親(おや)をたいせつにすべくこと。例 親孝行(おやこうぎやう)をむす。対 親不孝(おやふこう)

②「(い)する。親(おや)をたいせつにすべくこと。例 親不孝(おやふこう)な目上(めがし)の人(ひと)が目下(めげ)の者(もの)に對(たい)しても、あたたか(あたたか)くやさしい氣持(きもち)を。例 親不孝(おやふこう)な目上(めがし)の人(ひと)が目下(めげ)の者(もの)に對(たい)しても、あたたか(あたたか)くやさしい氣持(きもち)を。

【親潮(おやうしほ)】 ①千島列島(せんしやうりよく)にそつて日本(にほん)の東(ひがし)がわを北(きた)から南(みなみ)に流(なが)れる寒流(かんりゆう)。対 黒潮(くろしほ) 【知識(ちしき)】 プラ

【解(かい)使(もち)分け(わけ)】 さます【覚(かく)冷(ひや)ます】(あ)きのあきらさ・さ・さと・さと・さと



親指(おやさき) ①五本(ごほん)の指(ゆび)のはし(は)にある、いちばん太(おと)い指(ゆび)。関連(かんれん)親指(おやさき)差指(ささき)中指(なかがさき)薬指(ぐすりさき)小指(こさき) 【親権(おやごん)】 ①子(こ)どもを育(そだ)てるための、親(おや)の権利(けんり)と義務(こむぎ)。例 親権者(おやごんしや)

②(「ひや」)の意味
【親戚(おやせき)】 ①血(ち)のつながり(つながり)のある人(ひと)や、結婚(けつこん)によつてつながり(つながり)のできた人(ひと)。例 遠い親戚(とほひのせき)にあたる。類 親類(おやせき) 親族(おやせき) 身内(みうち) 縁者(ゆかりしや) 縁戚(ゆかりせき) 【表現(ひょうげん)】 【親族(おやせき)】 (い)だりにあります) 【親戚(おやせき)】 ①血(ち)のつながり(つながり)のある人(ひと)や、結婚(けつこん)によつてつながり(つながり)のできた人(ひと)。例 親族(おやせき)会議(かいぎ) 【類親類(るいせき)】 親戚(おやせき) 血族(ちやく) 【表現(ひょうげん)】 【親類(おやせき)】 (い)だりにあります)

【角笛】**かくぶえ** 動物の角でつくった笛。羊飼いや、かりゆうどが使う。例 角笛をいく。

②(かど)の意味で

【角材】**かくざい** 切り口が四角の木材。

【角錐】**かくすい** 底が多角形になっていて、上がとがっている立体。例 円錐、角錐。

【角柱】**かくちゆう** ①四角い柱。②切り口が多角形になっている柱。例 円柱、六角柱。

【角度】**かくど** ①直線、または平面が交わってできる角の大きさ。例 急角度。②ものことの見方。考え方の立場や方向。例 いろいろな角度から検討する。類 視点・視角・見地

③(さきど)の意味で

【角力】**かくりき** ①すもうの社会。②参考すもうは「相撲」のほか、「角力」とも書いたことから。

①角(つ)のとき

②角(かど)のとき

③直角・鈍角・鈍角・方角・仰角・視角(ドノヨウナ角度)か。

画カ イゲ 訓とーくーかすーとーける 解 角-6 総画13 5年 明解 89E3

④(つりのぞく)の意味で

【解雇】**かいこ** ①(する)会社などではたらいいた人をやめさせること。例 解雇を通知する。類 解職・免職

【解除】**かいじゆ** ①(する)それまで禁止したり制限したりしていたことを取り消して、もとの状態にもどすこと。例 津波警報解除。

【解消】**かいごう** ①(する)それまでのかわりあいや状態をなくすこと。例 先生に相談して不安が解消した。ストレス解消。

【解任】**かいにん** ①(する)役目をやめさせること。例 社長を解任する。対 任命

【解約】**かいやく** ①(する)約束を取り消すこと。キャンセル。例 保険を解約する。類 破約

【解脱】**かいだつ** ①(する)仏教で、心のまよいからときはなされて、自由の境地に入ること。

【解毒】**かいどく** ①(する)からだの中の毒のはたらきをなくすこと。例 解毒剤。解毒作用

【解熱】**かいねつ** ①(する)病気がたかくなった体温を下げること。例 解熱剤。

①(かた)の意味で

②(さきど)の意味で

③(かた)の意味で

④見解正解 難解 氷解 不可解 分解 了解 和解

⑤見解正解 難解 氷解 不可解 分解 了解 和解

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

【解】**はなると** はなると

画シヨク 訓ふれる 触 角-6 総画13 常用 明解 89E6 旧字 觸 89F8

【触】**ふれる** ①(する)それまで禁止していたことをゆるすこと。例 アユ漁の解禁日。

【解散】**かいさん** ①(する)集まっていた人びとが別れ別れになること。例 現地解散。対 集合

②(さきど)の意味で

③(かた)の意味で

④(かた)の意味で

⑤(かた)の意味で

⑥(かた)の意味で

⑦(かた)の意味で

⑧(かた)の意味で

⑨(かた)の意味で

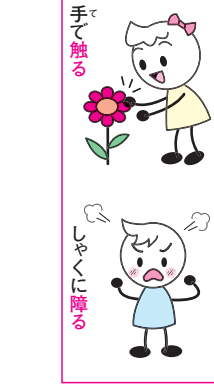
⑩(かた)の意味で

⑪(かた)の意味で

⑫(かた)の意味で

⑬(かた)の意味で

⑭(かた)の意味で



【触】**ふれる** ①(する)それまで禁止していたことをゆるすこと。例 アユ漁の解禁日。②(さきど)の意味で。③(かた)の意味で。④(かた)の意味で。⑤(かた)の意味で。⑥(かた)の意味で。⑦(かた)の意味で。⑧(かた)の意味で。⑨(かた)の意味で。⑩(かた)の意味で。⑪(かた)の意味で。⑫(かた)の意味で。⑬(かた)の意味で。⑭(かた)の意味で。⑮(かた)の意味で。⑯(かた)の意味で。⑰(かた)の意味で。⑱(かた)の意味で。⑲(かた)の意味で。⑳(かた)の意味で。㉑(かた)の意味で。㉒(かた)の意味で。㉓(かた)の意味で。㉔(かた)の意味で。㉕(かた)の意味で。㉖(かた)の意味で。㉗(かた)の意味で。㉘(かた)の意味で。㉙(かた)の意味で。㉚(かた)の意味で。㉛(かた)の意味で。㉜(かた)の意味で。㉝(かた)の意味で。㉞(かた)の意味で。㉟(かた)の意味で。㊱(かた)の意味で。㊲(かた)の意味で。㊳(かた)の意味で。㊴(かた)の意味で。㊵(かた)の意味で。㊶(かた)の意味で。㊷(かた)の意味で。㊸(かた)の意味で。㊹(かた)の意味で。㊺(かた)の意味で。㊻(かた)の意味で。㊼(かた)の意味で。㊽(かた)の意味で。㊾(かた)の意味で。㊿(かた)の意味で。